

ブラジルの政策金利引き下げについて

ポイント① 政策金利を14.00%に引き下げ

10月19日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利を0.25%引き下げ、年率14.00%とすることを決定しました。

市場の大半は今回の利下げを予想していましたが、利下げ幅は0.25%か0.5%かで見方が分かれていました。利下げは2012年10月以来、約4年ぶりとなります。

ポイント② 利下げサイクルの始まりを示唆

今回の決定の背景には、ブラジルのインフレ鈍化や財政改革の進展などを受け、同中銀が挙げていた利下げの条件が揃ったことがあります。

同中銀は前回の金融政策決定会合で、利下げの条件として、食料インフレのインフレ率全体への影響が限定されること、経済改革の議会承認と実行に対する不透明感が低下することなどを挙げていました。

9月のインフレ率は、前年同月比8.48%と、今年1月にピークをつけた後、低下傾向にあります。また、同国の議会上院において、財政支出に上限を設ける法案が可決され、テメル大統領が打ち出す財政緊縮策の追い風になるとみられています。

同中銀は今回の金融政策決定会合後の声明で、同中銀の2016年のインフレ予想が7.0%と、前回のインフレ報告書から低下した点を指摘し、「インフレ率が2017年と2018年の目標の4.5%に収斂していくことと、金融政策の緩やかで段階的な緩和は両立できると判断した」と説明しています。

ポイント③ ブラジルレアルは小幅上昇

10月19日のニューヨーク外国為替市場では、対米ドルで前日比0.6%程度のブラジルレアル高、対円で同0.2%程度のブラジルレアル高となりました。

今後の金融政策について、同中銀は利下げの幅やペースは、インフレ目標達成をより強く確信させる要素次第としています。また、デysinフレが加速した場合や財政緊縮策の議会承認が進んだ場合、利下げのペースを加速させる可能性があると指摘しています。

図1：政策金利の推移

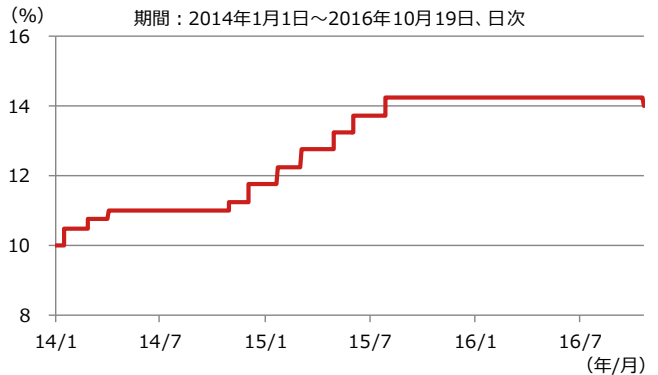


図2：拡大消費者物価指数（前年同月比）の推移

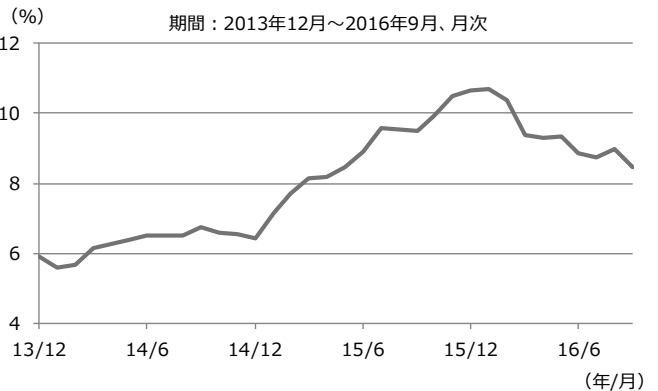
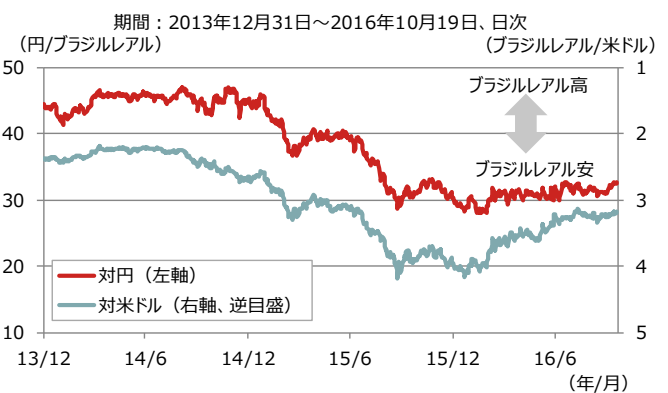


図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

11月9日	拡大消費者物価指数(10月)
11月30日	GDP(国内総生産、7-9月期)
11月30日	金融政策発表